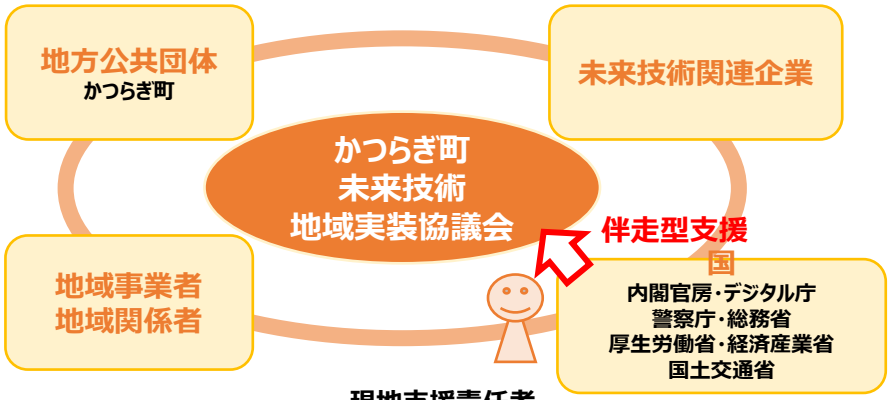
和歌山県かつらぎ町	交流拠点開設を契機に取組むメタバース技術を活用した持続可能なまちづくり事業	AI、IoT、5G、クラウドコンピューティング等

地域課題・目指す将来像

地域課題	○ 世界遺産、日本遺産など、歴史文化が豊富で、柿を代表としたフルーツの町だが、**後継者不足、新規就農者の確保が課題。**一次産業にかぎらず、**町内での就労環境の構築が必要** ○ 南北に広い行政エリアであり、**行政サービス、医療サービスなど地域間格差が生じている。**特に、高齢化率40%を超え、**高齢化社会に対応した生活基盤の整備が課題**
将来像	○ 地域資源（世界遺産・フルーツ・大型商業リゾート）を活かし、新たな関係性（交流人口・バーチャル住民・地域住民）をメタバース空間と実フィールドで創出。医療・行政ＤＸの推進 **⇒地域産業の活性化、地域格差を解消し、誰もが暮らしやすいまちへ**

推進体制



現地支援責任者
（内閣官房　デジタル田園都市国家構想実現会議事務局）

課題解決に向けた取組

【解決すべき課題】
- **交流・関係人口の低下により産業への寄与が少ないため、立地と資源を生かした産業振興による交流・関係人口の創出**
- **南北に広がる地形による地域格差解消施策と高齢化社会に対応した生活基盤の整備**

➢ **メタバース空間とリアルな場との相互連携による交流・関係人口創出事業**
- 地域内外の人がいつでも使えるメタバースの構築（観光・医療・教育）
- CRMを導入し、何度も訪れる、何度も地域特産品を購入したくなる管理体制構築
- 施設内フル顔認証決済サービス（手ぶら買い物サービス・デジタル地域通貨の導入）
- モビリティポート等活用した自動運転バス周遊サービス

➢ **データ連携基盤から医療・行政DXを図り、『ここが最高』と思わせるまちづくり**
- 行政サービスのDX化（顔認証による共通ID、デジタルコンシェルジュ）
- 観光メタバースに留まらない、地域住民・域外住民（バーチャル）が参加できる医療・行政DXによる各種行政サービスを提供
- AIヘルスチェックやIoTによる高齢者見守りサービス構築
- 医療DXサービス利用促進としてデジタル通貨と連動した、利用者が地域で使える特典・サービス導入検討

2022年度の主な取組	○ 未来技術関連企業や地域事業者・関係者と連携した協議会を設立 ○ 共通プラットフォーム・デジタル観光・行政DX・医療ヘルスケアなど最新技術の動向や現状の調査、プレ運用に向けての計画検討